

# 事故ゼロの目標に向けて！

## 安全委員会事故レポートの役割

### 行うことによって学ぶ

“ボーイスカウト活動中の事故をゼロにしよう！”という高い目標の達成のために、日本連盟安全委員会が展開している二つの事業が、①毎年数百件発生する補償適用事故データを駆使した「安全促進基幹フォーラム」（定型訓練ではない）の開催と、②『スカウティング』誌を通じた事故分析レポートの提供です。後者が、昨年5月号から5回にわたって本誌に連載しました「傷害共済制度における事故発生状況報告」に基づいた傷病データと「15NJ ナタ事故アンケート調査」の分析情報です。

昨今の世の中は、あらゆる分野で「安心・安全」という言葉が大流行ですから、安全に関する本や専門家の情報が山ほどあります。しかし、いくら頭の中の安全理論を充実させても、それだけでは事故防止の効果は期待できそうにありません。そこで、不幸にもボーイスカウトの仲間が起こしてしまった事故の傾向や原因と対策等の分析情報を共有することによって事故防止効果が倍加する、つまり“（仲間の事故についての研修を）行うことによって学ぶ”という効果を願って施策に採用しました。

### 「事故に備えよ」 「あらかじめよく考えておく」

『スカウティング・フォア・ボーイズ』のキャンプファイア物語23が「事故に備えよ」であることはよく知られていますが、その中の「あらかじめよく考えておく」の項で、B-Pはこのことの大切さをスカウトに説いています。指導者は自身の安全確保はもちろんのこと、スカウトの事故を防止する役割を担っていますので、スカウト活動のあらゆる場面の安全について「あらかじめよく考えておく」ことが大切であることは100年前も今も変わりません。

安全促進基幹フォーラムでは、「（仲間の事故についての研修を）行うことによって学ぶ」セッションとともに、死亡事故の裁判事例（必ずしもボーイスカウトの死亡事故だけではなく）に学ぶセッションも用意していますが、そこでは“ルールを守れば事故は起こらない！”ことを結論づけています。（平成21～23年度に全国12会場で開催）

さすがにボーイスカウト指導者は、スカウ

トが事故を起こさないように「あらかじめよく考えておく」は実行していますが、考えた結果の安全ルールを守らせていないために事故を起こすことが多いようです。また、指導者の事故が全体の20%以上と多発している原因の多くが、“安全は自己責任、自分は大丈夫！”という自信過剰によるものです。これも年齢・運動能力・体調等を冷静に考慮した上で、自身の活動について「あらかじめよく考えておく」ことと、考えた結果の安全ルールを確実に守ることがとても大切です。

### 安全確保・事故補償のシステムループ

日本連盟は、スカウトと指導者が「安全確保・事故補償のシステムループ」と呼ぶ輪の中で活動する仕組みをつくって運用しています。このループの中核をなす事故補償の仕組みが日本連盟と保険会社で開発した「そなえよつねに保険」（平成21年度までは傷害共済制度）ですが、事故ゼロの目標に向けて次の4段階のアクションをループ化しています。

①補償適用事故データを活用した安全促進基幹フォーラムや『スカウティング』誌掲載事故分析レポート等による安全促進の研鑽



②それでも事故が発生した場合は、「そなえよつねに保険」で補償



③補償適用事故データの取得・分析による安全確保のための傾向や原因・対策の更なる研究



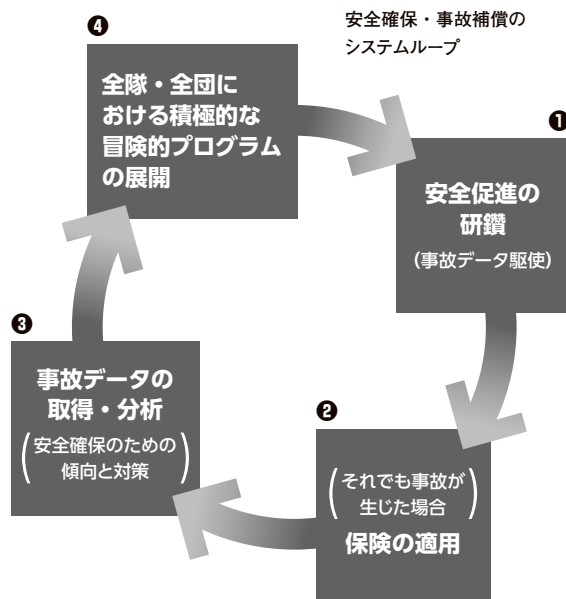
④「あらかじめよく考えておく」の安全ルールを守って、ボーイスカウトらしい冒険的プログラムの展開



①に戻る

現在このループの中で活動しているスカウトや指導者は加盟員の約70%ですが、平成

安全確保・事故補償のシステムループ



24年度からは加盟員全員がこの輪の中で活動することになりますので、安全確保の観点からは誠に喜ばしいこととあります。

日本連盟は傷害共済制度を創設（昨年度から「そなえよつねに保険」に移行）しましたが、これは保険の運用そのものが目的ではなく、掛金の低廉化はもちろんのこと補償事故のデータを取得することによる「安全確保・事故補償のシステムループ」の運用が目的であることをご理解いただきたいと思います。

### 加盟員減少に歯止めをかける 有力な方法

加盟員数の減少に歯止めをかける有力な手立ての一つは、日頃の活動における“ボーイスカウトらしい多彩な冒険的プログラムの展開”ですが、安全を必要以上に意識し過ぎると萎縮したプログラムになりがちです。そこで“ルールを守れば事故は起こらない！”ことを理解して、「安全確保・事故補償のシステムループ」の中でスカウトが目輝かせるような冒険的プログラムを提供することがとても大切ではないでしょうか。

そのような意味からも、「安全促進基幹フォーラム」の開催と『スカウティング』誌掲載事故分析レポートの提供を今後も継続していく予定です。

安全委員会